

「小児科 Decision making」

Pediatric Decision Making

Stephen Berman, MD

昭和大学教授 小 林 昭 夫 監訳

昭和大学教授

滝 田 誠 司

本書は、小児の日常診療を行ううえでこの上なく重要と思われる主要症候または疾患、111項目を取り上げ、その各々について診断、検査、治療および管理を行う場合、いかに筋道を立てて組織的に体系的に考えを進めて行ったらよいかを、本書の最大の特徴であるいわゆるデシジョン・ツリー (decision making, 意思決定のための枝分かれ図とでも言おうか) を用いて明確に示したものである。

したがって、これから小児科を専攻しようとする若き医学徒および小児科医以外の医師は、本書を通じて小児の診療を行ううえでの正統的かつ合理的な思考過程を習得できるし、一方また小児科専門医は、本書を通読することにより、既存の知識を整理し、それらを一層有機的に有効に活用することが可能となるものと思われる。小児の診療に携わるすべての医師に本書を推薦する所以である。

記載されている 111 項目として

は、不明熱、咽頭痛、喘鳴、低身長、異常尿所見、皮膚病変の診断、歩行異常、跛行、頭痛、腹痛、貧血および黄疸など遭遇することの多い症候・疾患、およびこれと並んで若年性関節リウマチ、潰瘍性大腸炎、行動異常など研究的にも問題の多い各種疾患が幅広く含まれている。以上の各項目は、全体として 15 の大きな章—熱性疾患、耳鼻咽喉科疾患、眼疾患、心・血管疾患、……行動異常、新生児疾患—に分類され利用しやすくなっている。

本書の最大の特徴は、何といても、その記述形式のすばらしい斬新さにある。読者の便を図って、各 1 項目を見開き 2 ページに納め、右のページにはデシジョン・ツリーを図示し、左のページにはその解説が記されている。デシジョン・ツリーとはトーナメントの図がちょうど逆になったものである。すなわち、優勝チームが提起されている問題に当たり、それが第 1 回目の意思決定により、2 つの準優勝チーム、すなわち

2 つの次の問題へと移り、更に同様に次々と意思決定が行われ問題が解決される (各参加チームにたどりつくことになる)。左ページには、図に従って意思決定を行う場合に是非とも考慮し参考にしなくてはならない事項が記述されているので、その内容は簡にして要を得ており、しかも高度で、かなり膨大な知見が凝集されているように思われる。なかでもすべての項目について、病歴および診察という事項が設けられ、各項目を考えるうえでの幅広い背景および鑑別診断などが詳細に的確に述べられている。

本書の訳出には、各専門分野の第一人者が分担して当たり、これを監訳者が統一されておられるが、文章は日本語として大変良くこなれて読みやすいものとなっており、しかも専門用語の訳も誠に適切である。監訳者および各訳者の御努力に深く敬意を表する次第である。

本書は、B5 判 250 ページ程度でそれほど大きなものではないが、その内容は優に大部の小児科学書に匹敵するものであり、その記述方法もまさに新鮮そのものである。小児科医はもちろん、小児に関心を持つすべての医師の御一読をお勧めする次第である。

B5 判 246 頁 6,000 円 送料 300 円
1986 年 医学書院 刊